

特 44

789

東 京 圖 書 館

和 書 門

音 樂 類

函

四 八 架

五 號

二 八 冊

棋

將

將侍



第^一 振乃夜^ノ入^ルす^カけ^ノツ^ク〜^ト息^ヲひ

き^レ雅^ヤや^ハ志^シほ^ク〜^ト上^ノ縁^ノよ^クし

さ^レふ^カな^ハな^ハな^ハて^ク〜^ト雲^ノ井^ノの

月^ノと^ミの^ノの^ノお^ハ其^ノね^ノ縁^ノよ^ク〜^ト

も^トあ^ハら^ハ〜^トあ^ハら^ハ〜^ト

あつちのりんが 婿子波徳八八郎
あつちのりんが 婿子波徳八八郎
あつちのりんが 婿子波徳八八郎
あつちのりんが 婿子波徳八八郎
あつちのりんが 婿子波徳八八郎
あつちのりんが 婿子波徳八八郎
あつちのりんが 婿子波徳八八郎
あつちのりんが 婿子波徳八八郎
あつちのりんが 婿子波徳八八郎
あつちのりんが 婿子波徳八八郎

あつちのりんが 婿子波徳八八郎
あつちのりんが 婿子波徳八八郎
あつちのりんが 婿子波徳八八郎
あつちのりんが 婿子波徳八八郎
あつちのりんが 婿子波徳八八郎
あつちのりんが 婿子波徳八八郎
あつちのりんが 婿子波徳八八郎
あつちのりんが 婿子波徳八八郎
あつちのりんが 婿子波徳八八郎
あつちのりんが 婿子波徳八八郎

燈の身よ卒度ゆきくゆき
おち松結の利きゆき
くねり〜身よきゆき
あふるゆき
〜後ゆき
なれゆき

松ゆき
會ゆき
ゆき
ゆき
ゆき
ゆき

ゆき

ゆき

ておぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし
我らからいふたのよ状乃々人三人行
つておぼしめしつれぬきうひり今おぼしめし
侍ふ十二人若くはわらわらわらわらわら
よふかへる事おぼしめしおぼしめしおぼしめし
おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし
おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし

くまは油は判官殿の油乃
人乃若くはわらわらわらわらわらわら
おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし
侍のいふて我子の御用おぼしめし
若くはわらわらわらわらわらわらわら
のいふてわらわらわらわらわらわら
か援

侍

カキフサ

か援

しうよとやふけ焼りとと播戸の

者十三の年継母とらうらゐるお

よりの^{トセル}故庄司殿とらうらゐるお

後とまゝあひ今かへらぬとて

ゆゑに^{トセル}たからしむる社と

り我おの人のあつたこと

とまゝいふ(おの)ちちの

お播戸の人となや(おの)おの

しとち判官殿りよの裁と

とまゝいふこととち時お人の

おとまゝいふこととち時お人の

とまゝいふこととち時お人の

十巻の巻末に後りある「⁷板が
ら一匹たみだぬいけはなる
しあつた^ニとせ ち^ニは^ニら^ニと大
ま^ニあ^ニて^ニた^ニれ^ニ人^ニら^ニあ^ニり^ニと^ニな
め^ニて^ニあ^ニる^ニ人^ニら^ニあ^ニり^ニと^ニな
り。物作^ニら^ニは^ニあ^ニり^ニと^ニな^ニる^ニの^ニ

相しくもあつたは

てい^ニは^ニあ^ニる^ニ人^ニら^ニあ^ニり^ニと^ニな^ニる^ニ

と^ニあ^ニる^ニ人^ニら^ニあ^ニり^ニと^ニな^ニる^ニ

又^ニあ^ニる^ニ人^ニら^ニあ^ニり^ニと^ニな^ニる^ニ

と^ニあ^ニる^ニ人^ニら^ニあ^ニり^ニと^ニな^ニる^ニ

の^ニあ^ニる^ニ人^ニら^ニあ^ニり^ニと^ニな^ニる^ニ

ヤア

士

子
あつらふはくまの娘よ。人の
かゝるの心持よせくらゝのくまを
我よよ上書又くあふおしあつたし
のえ岩おとむいふなぬ戦後なつち
かくく上あつたふいふおの
梅檀の二葉よりしそ白くあし織
ヤラ

船ト次ト行トウト子トなトりトのトらトのトとト。
る目ととみれ海とおうと。
今手ら手お手ふ手ら手ら手後手〜
あくの心持ひ。あよの心持ひ。
あら若らによららふらはまのつ有と
あら目とからの心持ひ。
ユラ

抄

三

難から。我れは、
つら〜。おのの事〜。おのの事
ら〜。おのの事〜。おのの事
おのの事〜。おのの事〜。おのの事
乃有。おのの事〜。おのの事〜。おのの事
ら〜。おのの事〜。おのの事〜。おのの事

中〜。おのの事〜。おのの事〜。おのの事
河前河。おのの事〜。おのの事〜。おのの事
後の事と。おのの事〜。おのの事〜。おのの事
笑口笑。おのの事〜。おのの事〜。おのの事
と。おのの事〜。おのの事〜。おのの事
前前。おのの事〜。おのの事〜。おのの事

おのの事

おのの事

合戦。今からかうよといふ。一。ふ。口。後。
殿の二男。信登。守教。後と名をまぐ。
小和。あ。あ。景。後。り。か。く。清。と。世。
い。ふ。源。氏。の。大。将。源。九。郎。義。経。の。
夫。一。飛。ま。あ。い。り。口。し。信。と。い。ふ。信。と。
の。い。ふ。か。う。中。一。各。と。名。と。い。ふ。等。

所。夫。面。か。た。な。い。と。い。か。い。の。な。い。か。
し。の。い。ふ。信。と。い。ふ。一。度。の。信。と。い。ふ。
場。の。け。別。り。人。と。い。ふ。あ。馬。と。い。ふ。
か。ち。の。い。ふ。信。と。い。ふ。信。と。い。ふ。か。
と。い。ふ。信。と。い。ふ。信。と。い。ふ。信。と。い。ふ。
と。い。ふ。信。と。い。ふ。信。と。い。ふ。信。と。い。ふ。

あゝとていへば船の歌

とつ舟の歌は船の歌

船の歌は船の歌

船の歌は船の歌

船の歌は船の歌

船の歌は船の歌

船の歌は船の歌

船の歌は船の歌

船の歌は船の歌

船の歌は船の歌

船の歌は船の歌

船の歌は船の歌

船の歌

船の歌

と命のかりき名に家も磨り
情うんまぬし高柳お八
お及お母と十お解るしん
らうの不便なとあーら
か書七月おおほりて
家へおとすからまへし

終おびあ〜成おんを
即おとら〜せつら
と兄お勸まきと暑〜次お
後お母お知〜
命の世と報見んと
お〜半お〜我入か

三つ

七

一 教諭の如く名をなすも名
 一 素よりぬき名のを無し
 一 母の如くおぼへて更なる
 一 有明乃月の香を如く
 一 抄より世まわりぬれ
 一 人づきの香

一 と儀と名の如く
 一 抄ふまをらぬ
 一 ありて給はざる
 一 入らぬ状の如く
 一 ありて産るも
 一 ありて有根と父
 一 ありて父を

相外

ハカクハシヤクニシテハ
ハカクハシヤクニシテハ
ハカクハシヤクニシテハ
ハカクハシヤクニシテハ

十三

右之本者觀世大夫章句真本令版行畢

正徳六丙申歲跡生

示来荏苒数十年ノ星霜ヲ經ルニ從ヒ改正増補ヲ加ヘ
シモ印刷ニ附セサレハ之ヲ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ミ今般
宮内省 御用達觀世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

明治十七年七月五日 出版御届

同 年七月 刻成癸兌



京都府平民

出版人 檜 常之介

上京區第三十組二条通寺町西
丁子屋町 十一番戶

